

牧羊ひろば



舞鶴福音教会 教会学校

●はじめに

舞鶴福音教会は一九八七年の創立から32年目を迎えました。これまでの教会学校の歩みを紹介させていただきます。

●教会学校の移り変わり

創立当初は、舞鶴教会時代からの生徒（クリスチャンホームと一般家庭の子どもたちが同数くらい）でスタートしました。当時は青年会が活発に活動しており、中高生を加えた青年会を中心として、教会全体で子ども大会や餅つき大会など外に向かった活動も盛んでした。

隣の子どもたちが来てくれるようになりました。ところが、突然その子どもたちが来なくなったのです。理由は、地域にあるスポーツ少年団でした。教会学校に来てくれていた子どもたちはそのスポーツ少年団にも属しており、

教会学校が終わってからスポーツ少年団に駆けつけていたのですが、教会学校の終了時間よりスポーツ少年団の開始時間が若干早いため、どうしても遅刻をしてしまうのです。そんな子どもたちにスポーツ少年団のリーダーから「どちらか1つにしなさい」と指導があり、子どもたちはスポーツ少年団を選んだのでした。



’88いも掘り

当時の教会学校のプログラム

8時15分～ 礼拝

8 時 45 分 ～ 分級

9 時 00 分 ～ ビデオ『聖書物語』

子どもたちは『聖書物語』を楽しみにしていました。対応策を検討しましたが、開始時間を早めることもできず、対策は何も取れませんでした。そのような状況になった教会学校でしたが、次第に若い家族に子どもがあらたえられ、教会学校はクリスチャンホームの子どもたちで賑やかになっていきました。教会で共に育った子どもたちは、大人になった今でも本当の兄弟のように仲がいいです。



‘90夏期学校

●お楽しみ会

4年目の一九九一年から、月一回・土曜日に「お楽しみ会」を始めました。当初は「こども映画会」として、『聖書物語』と子ども向けビデオの上映会で日曜日に来ることができなくなった子どもたちが教会に来る機会を作るためでもありました。当時は家庭でビデオを大きな画面（スクリーン）で見ることが珍しかったこともあり、教会学校に来たこともない子どもたちもたくさん来てくれました（100人を超えたこともありました）。

9年目となる一九九六年、名称を「こどもお楽しみ会」、内容を『聖書物語』、シヨートメッセージ、お楽しみゲームまたはおやつ作り）に変更し、神様の言葉を子どもたちに伝える時間と交わりの時を持つようにしました。開催は春・夏・秋のシーズンごとに減りましたが、教会学校の生徒だけの「クリスマス会」が多くの子どもたちが集う「こどもクリスマス会」に変わりました。

毎回十数人の子どもたちが集うようになり、この機会を増やそうと二〇〇一年から開催を毎月とし、内容の見直し（シヨートメッセージ後に分級を追加、お楽しみはおやつ作り）をしました。また、ビデオばかりではなく、

紙芝居（大きく映し出し、登場人物を教師に配役）を始めました。これも子どもたちに大人気！ 来てくれる子どもたちは年間で延べ250人までになりました。現在では年間150人ぐらいに減りましたが、メンバーが固定化されてきています。

二〇一八年度のお楽しみ会

4月、春のこどもお楽しみ会

（DVD『泣いたベテロ』、餅つき）



春のお楽しみ会

5月、こどもお楽しみ会

（紙芝居「ころちゃんのおうち」、ポップコーン）

6月、夏のこどもお楽しみ会

（DVD『生贄は息子』、かき氷）

7月、夏期学校



夏期学校

9月、こどもお楽しみ会

（DVD『フアの箱舟』、アイスクリーム）

10月、こどもお楽しみ会

(紙芝居「ろうそくものがたり」、ホットケーキ)

11月、秋のこどもお楽しみ会

(DVD『君の足を洗わせて』、秋祭り)

12月、こどもクリスマス会



こどもクリスマス会

1月、こどもお楽しみ会

(DVD『金の子牛か、神の約束か』、クレープ)

2月、こどもお楽しみ会

(DVD『長男対次男 一番争い』、たこ焼き)

3月、6年生卒業お祝い会

月一回ではありますが、土曜学校的な働きになっているのでは感謝です。ただ、そこから日曜日の教会学校に來てくれる子どもがなかなか起こされません。日曜日の朝となると、家庭の理解と協力が必要だと痛感します。会社で同僚に日曜日の起床時間を聞いてみたところ、「予定がないと目が覚めるまで寝ている」とのことでした。日曜日でも6時過ぎには目覚めてしまう習慣がついてしまった私には羨ましい話でしたが、そのような環境の中で、子どもたちが自分で起きて教会学校に來ることは本当に難しいことでしょう。

●教会学校の状況

信徒に若い世代のクリスチャンホームがないこともあり、5年前(二〇一四年)、教会学校の生徒が中学に上がることにより、生徒がいなくなるという危機を迎えました。ときどき來てくれていた小学3年生たちも休みがち

で、その年の後半は誘っても来てくれない状況でした。年度末の教師会で話し合い、牧師の「少し休んでみれば」との言葉で休校が決まりました。これまでも参観日や運動会の日など学校行事のある日は、教師だけで礼拝を捧げていましたので、教会学校は新年度から休校となったものの、私は「やっぱり教師だけでも」と教会に行くつもりでしたが、週末、牧師夫人から電話があり、「私が子どもたちを迎えに行くので教会学校は続けます」とのことでした。一年間は生徒1人（ときどき0人、まれに2人）の状況が続きましたが、牧師の転任が決まりました。新任牧師家庭の子ども2人を迎え、生徒3人となりましたが、今は、牧師家庭の子ども2人のみとなりました。

現在の教会学校のプログラムは次のとおりです。

- 8 時 30 分 教師の祈り会
- 8 時 45 分 ゲーム
- 9 時 00 分 礼拝
- 9 時 30 分 分級

二〇一九年度のお楽しみ会も、スタートしています。5月の「子どもお楽しみ会」は、学校行事の関係もあり、来てくれた子どもは過去最低の4人でしたが、子どもが少ない分十分な交わりを持つことができ、おやつ後はゲームで盛り上がりました。そして次の日の日曜日、2人の男の子が教会学校に来てくれました。礼拝も終わり、分級を始めようかとしていた時でしたが、それでも来てくれたことを嬉しく思いました。残念ながら翌週からは、来てくれなくなりましたが…。

●これからの教会学校

何度も内容を見直し、試行錯誤の中で続けてきました「子どもお楽しみ会」ですが、これからも続けていくことになるでしょう。この「お楽しみ会」からすぐに教会学校に繋がることなくとも、教会の中には入ったこと、神様の愛に触れたことは、子どもたちに将来にきつと大きなものになるでしょう。

これからも私たちCS教師一同は、子どもの救霊のために祈りを絶やすことはありません。

（熊野純二）